

平成 31 年度
年間業務報告書

株式会社南紀白浜エアポート

2020 年 4 月

第1四半期（4月～6月） 空港事業実施状況

当社は平成31年4月1日より空港運営事業を開始し、安全・保安の維持・向上が空港運営上最も重要な事項であると位置付け、役職員が一丸となって取り組んでいます。

空港基本施設及びターミナルビルを一体運営することにより、意思決定の迅速化によるオペレーションの効率化・危機管理体制の強化、更には、地域への誘客を促進させるため、旅行業及び旅行代理店業を開始しました。

以下

1) 空港運営事業の開始

一体運営開始初年度に当たる今年は、会社全体の安全管理体制の基盤構築、運用マニュアルの整備に取り組むとともに、各種点検・工事・設備投資の実施、空港運用にかかるノウハウを継承・蓄積すべく人材の雇用・育成及び教育研修の実施、業務委託先への教育などを実施しています。

2) 航空旅客の利便性向上と誘客

新たなターミナルビル事業の取り組みとして平成31年2月1日より搭乗旅客の荷物を近隣宿泊施設まで運ぶ手荷物配送サービスを開始し、到着旅客の利便性を向上させることが出来ました。

また、地域交通の利便性向上に向けた二次交通の拡充施策として平成31年4月1日から明光バス株式会社の大阪・京都・東京方面の高速バス空港乗入を、4月27日から熊野交通株式会社による空港と串本・勝浦・新宮をダイレクトに結ぶ空港リムジンバスの新規運行を開始し、地域の交通アクセス向上に寄与することができました。

今後も航空ネットワークと複数の地上交通ネットワークを集結させて円滑に接続される地域の起点となるべく役割を果たすことができるよう二次交通の拡充に取り組んでいきます。また、6月18日に旅行業登録が完了し、本格的な誘客活動に取り組んでいます。

第2四半期（7月～9月） 空港事業実施状況

エアライン誘致に向けた誘客・地域活性化事業の一環として、第1四半期に第2種旅行業登録を完了した旨をご報告しましたが、首都圏・欧米豪を主要ターゲットとした航空需要創出の営業活動を開始しております。

今期における主な活動実績については以下の通りでございます。

A. 首都圏向け

①ワーケーション

- ・三菱地所株式会社が白浜町に構えるワーケーションオフィスの地域コンシェルジュ事業を展開。首都圏のビジネス客に対して月に数回、旅程提案・旅行手配・ビジネスマッチング・アテンドなどを実施。
- ・首都圏の親子23名が参加する親子ワーケーションのイベントマネージャーとして、アテンド・旅程管理および運営サポート等を実施。8月に2泊3日で開催。

②IoT 聖地化

- ・NEC と顔認証技術を使ったおもてなし実証実験を実施中。東京の NEC 社員に加えて全国の企業・自治体やメディアから視察や取材が来訪。

③観光客

- ・南紀白浜・田辺魅力発信プロジェクトチームに参画し、有楽町で和歌山プロモーション（特に JAL と連携した航空利用促進）と 938 件のアンケート調査を実施。

B. 欧米豪向け

①ロシア

- ・9月30日にウラジオストクの旅行代理店向けに JNTO・観光交流課と連携した和歌山プロモーションおよびランドオペレーションの B2B 商談を実施。

②欧米

- ・7月6～9日で英国旅行代理店向けに FAM トリップを開催。3泊4日で紀南エリアを周遊し、宿泊施設紹介に加えて、釣り・備長炭風鈴づくり・梅ジャムづくり・民泊・養殖まぐろエサやり・古座川カヤック・古民家宿泊などの体験を実施。

C. エアライン向け

①定期便

日本航空株式会社に対して8月に関連自治体との連名で供給拡大の要望書を提出。

②チャーター便

FDA チャーターの花巻便について、発地側代理店と連携したツアー商品づくりを実施。

上記、主な事業についてご報告申し上げます。

第3四半期（10月～12月） 空港事業実施状況

エアライン誘致に向けた誘客・地域活性化事業の一環として、第1四半期に第2種旅行業登録を完了した旨をご報告しましたが、首都圏・欧米豪を主要ターゲットとした航空需要創出の営業活動を展開しております。

今期における主な活動実績については以下の通りでございます。

A. 首都圏向け

①ワーケーション

・三菱地所株式会社が白浜町に構えるワーケーションオフィスの地域コンシェルジュ事業を展開。首都圏のビジネス客に対して月に数回、旅程提案・旅行手配・ビジネスマッチング・アテンドなどを実施。10月25日には三菱地所と連携して首都圏企業の人事部長を白浜に集め、視察会も開催。ワーケーション仕組化に向けた意見交換や熊野古道アテンドなどを実施。

・関係人口創出プロジェクトとして首都圏のビジネスパーソン15名が参加する人事研修プログラムを開催。11月に2泊3日で開催。日本能率協会マネジメントセンターと連携して企画・運営サポート、研修講師、旅行手配等を実施。

②IoT 聖地化

・NECと顔認証技術を使ったおもてなし実証実験を実施中。東京のNEC社員に加えて全国の企業・自治体やメディアから視察や取材で100名以上が来訪。

・串本の民間ロケット発射場の起工式を11月に実施。スペースワン社に対して、地域コンシェルジュとして要人移動に関するJALとの連携や空港内VIP対応、二次交通などのサポートを実施。

③観光客

・FDAチャーターが10月から12月までに16本が就航し、1,782名が搭乗。このうち、花巻便の2件のツアーについてランドオペレーションも受託。

B. 欧米豪向け

①ロシア

・10月1日にハバロフスクの旅行代理店向けにJNTO・観光交流課と連携した和歌山プロモーションおよびランドオペレーションのB2B商談を実施。

・10月16日にロシア訪日旅行代理店JATM社大阪支店とチャーター便誘致に向けた意見交換を実施。

C. 地元向け

①利用促進活動

- ・地域団体（商工会・観光関係団体・私団体等）に対する空港利用促進の講演を開催し、リーズナブルな航空運賃の周知活動や空港会社の取り組み紹介を実施。

- ・JR 新宮駅等で鉄道から航空への乗り換え利用促進プロモーションを実施。移動時間・料金など具体的なメリットを周知し、地元需要を発掘。

②空港イベント

- ・空港を身近に感じてもらうための空港内音楽イベントを10月19日に開催。約150名の地域住民が参加。

③観光人材育成

- ・11月に開催したスタートアップウィークエンドや南紀熊野観光塾の講師を務め、地域の観光人材育成を図るとともに、空港の取り組みについて若手事業家に対して紹介。

D.エアライン向け

①定期便

日本航空株式会社の定期便について10月27日より3便中2便の機材大型化が実現。合わせて、航空運賃についてもリーズナブルなプロモーション料金の継続を獲得。

②チャーター便

10月1日にウラジオストク空港と国際チャーター便就航に向けて、候補エアラインの洗い出しと今後の誘致連携について協議を実施。

上記、主な事業についてご報告申し上げます。

第4四半期（1月～3月） 空港事業実施状況

今年度の締めくりとなる第4四半期ということで旅行業等の商品販売及び新商品の企画立案と積極的な誘客・地域活性化事業を凶っていましたが、2月期頃からの新型コロナウイルス感染症の影響により、販売済み旅行商品のキャンセルが相次いだことを踏まえ以下の事業の報告をさせていただきます。

A. 首都圏向け誘客活動

①ワーケーション

- ・三菱地所株式会社が白浜町に構えるワーケーションオフィスの地域コンシェルジュ事業を展開。首都圏のビジネス客に対して旅程提案・旅行手配・ビジネスマッチング・地域アテンド等を実施。3月については全ての予約がキャンセルとなった。
- ・関係人口創出プロジェクトとして首都圏のビジネスパーソン15名が参加する地域課題解決型の人事研修プログラムを1月に2泊3日で開催。2月には1泊2日で最終発表会も開催。日本能率協会マネジメントセンターと連携して企画・運営サポート、研修講師、旅行手配等を実施。今後の販売強化に向けて首都圏JTBへFAMトリップも開催。

②IoT 聖地化

- ・NECと顔認証技術を使ったおもてなし実証実験を展開。東京からのNEC社員の往来に加え、全国の企業・自治体・メディアによる視察・取材の呼び込みとアテンド・手配を実施。2月には竹本科学技術大臣や北村地方創生大臣も視察。10～40名規模の団体視察を複数受け入れたが、3月の予約（約100名）は全てキャンセルとなった。
- ・ソフトバンクと自動運転の実証実験について協議を開始。地域関係者との定期的なビジネスマッチング等のサポートや、スーパーシティ構想への参画を調整中。

③観光客

- ・1月にすさみ町で実施された阪神タイガース原口選手チャリティマラソンの首都圏からの誘客について専用パッケージ商品を造成して販売。
- ・2月には東京から観光事業関係者20名の和歌山観光&視察を開催。
- ・3月には有田振興局主催の有田・湯浅・広川エリアFAMトリップに旅行代理店4社とともに参加。

B. 欧米豪向け誘客活動

①ロシア・欧米向け

- ・1月にロシアや欧米各国とリレーションを有する旅行代理店に対して個別FAMトリップを開催。ロシア女性向けのヘルス&ビューティープランなどの商品造成を開始。

②地域の受入体制強化

- ・空港や地元ホテルで多言語翻訳チャット機能の実証実験を開始。

C.地元の空港利用促進

①利用促進活動

- ・地域団体（商工会・観光関係団体・私団体等）に対する空港利用促進の講演を開催し、リーズナブルな航空運賃の周知活動や空港会社の取り組み紹介を実施。

②空港イベント

- ・コロナ感染症予防に向けて笑顔で除菌ができる手指自動消毒器エミーウォッシュを空港に設置。

③観光人材育成

- ・2月末に開催予定であった南紀熊野観光塾は延期。

D.エアライン営業

①定期便の需要底上げ・誘致

- ・日本航空株式会社の定期便について、機材大型後の堅調な需要の底上げを実現していたが、3月に一気に失速。
- ・白浜・成田路線について、ピーチ・ANAと勉強会を実施。

②二次交通の拡充

- ・りんくうタウンや大阪（なんば）に停車する高速バスが3月より新たに空港に乗入れを開始。

上記、主な事業についてご報告申し上げます。